

非水百花譜

第八輯

大正
9. 12. 28
丙寅



始



やぶくわんざう (數萱草)

學名 *Hemerocallis fulva* L. var. *Kwanso* Regel.

異名 おにくわんざう、萱男草、蕨草

漢名 千葉萱草

英名 Day Lily

科名 百合科 (Liliaceae)

田畔、山野草叢の間に自生せる宿根性草本にして、地下に根莖を有し、之より根を輩生す。根は黄色を呈し木質柱々塊球をなす。葉は長さ二尺、同じく地下の根莖より生じ、無柄にして線形、不木状にして狭く、多少彎曲せる傾あり。其の質柔く、淡黄色を呈し光澤を缺き、表裏の區別明なり。

七八月頃葉間より二尺許の花莖を抽出し赤褐色に紫黒點ある萼舟に似たる花を開く。培養品は六月より開花するものあれば野生のものは稍晩れ、且花輪大ならざるが如し。花は重瓣にして外部の花被は基部合一して筒状をなし、雄蕊は多く内部花被の先端に附着すれど時に特立する事あり。雌蕊は四又は五個を有すれど子房なく、結實する事なし。

本邦普通に見る所にして觀賞用として園藝せられ、又嫩葉及花蕾は煮て、食し、諸種の料理に用ひらる。薬用としては小便赤濁、身體煩熱を治し、酒疸を除き濕熱を治す。根は石淋、黃疸、疝、乳癰を治すと云へり。又古來の言ひ傳へに液紅の婦人、此の花を佩ふれば男子を産むと稱せられ、萱男草の異名も之より出でしものと察せらる。

備考

一、本種にワスレダサの名を用ふるものあれば、之とは全く別種なり。

一、*Hemerocallis* なる語は *hemera* (日) 及び *kubis* (美麗) なる語よりなりしものにして *fulva* は *ruddy* (黄褐色) を意味す。蓋し花色より來りしものならむ。



本圖 大正九年七月十一日東京に於て寫生(自然)

附圖 (一) 花の正面(二) 蕾(以上自然)

寫真者著て於に京東月七年九正大

非水百花譜第八輯目次

- やぶくわんざう (數萱草)
- かきりさう (錦器草)
- けし (野罌粟)
- んざう (華鬘草)
- し (釣鐘人參)
- かねにんじん



いかりぎょう (鋪草)

學名 *Epinetium macranthum* Moer. et Dome.

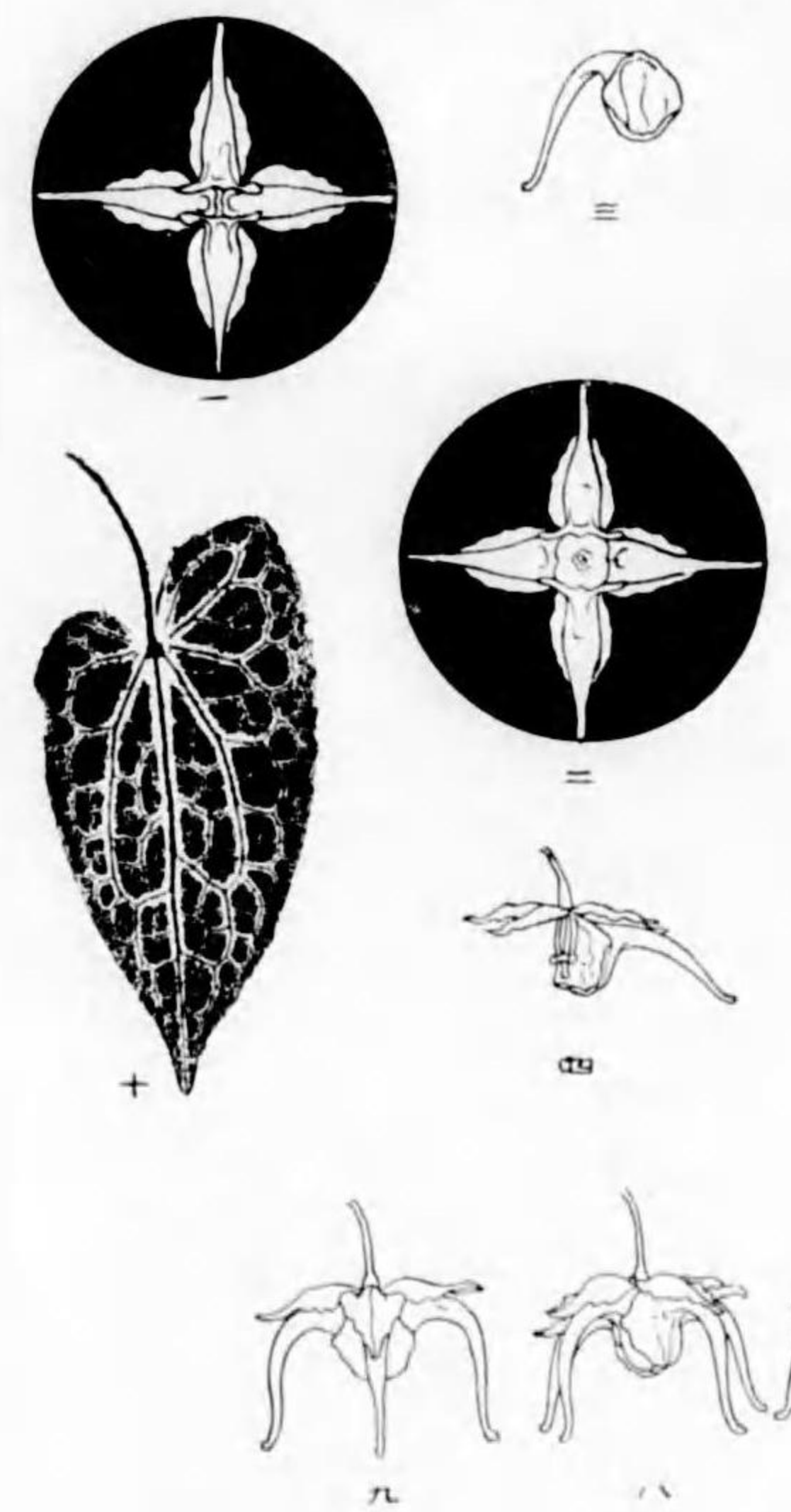
漢名 洋羊藿

科名 小蘗科 (Berberidaceae)

本邦各地の山野に支那、朝鮮等に原産する宿根生草本にして、概形オキナクイ
 カリヤウ (*Epinetium macranthum*) に類すれども之より稍小さく凡そ二尺に生
 育す。根茎短くして其硬く、而して之より丈大なる多数の根茎と芽條を生じ、一
 根よく数葉を發生せり。葉は三回三出の複葉にして、葉脈を有し、各小葉は小葉
 柄を具へ質剛く心臟形を呈す。先端は鋭りて、縁邊には細密歯状に刺毛を列し、
 葉脈は葉裏に隆起す。中肋の左右は不等形なり。
 晩春葉枝中より花茎を抽出し數花を着生す。花は紫色又は白色にして、三角形又
 は三角狀廣卵形をなせる短小なる色を有す。八個の萼は内外の二に分たれ、外部
 の四片中最外の二片は細小にして卵形或は卵狀長橢圓形をなし、銳頭を有し、次
 の二片は橢圓形にして頗る長く、前者の凡そ一倍をなせり。内部の四片は比較的
 大きく共に同形をなせる卵形或は卵狀長橢圓形にして、銳尖頭を有す。
 花冠は四個あり、各圓形をなして長き距を作り先は勾りて狀を爲し餘外に出で
 恰も鐘狀をなせり。四雄蕊は下垂し、花冠より短く、花絲は殊更に短し。葯は線
 狀披針形をなし葯隔頂端に起出す。而して雄片を以て開裂し黄色の花粉を吐く。
 雌蕊は雄蕊より長く、子房は狭長、長橢圓形にして胚珠は無毛にして上下狹窄し
 單室にして凡そ十顆内外の卵子を有す。花柱は一個にして直立し、子房と同じき
 程の長さあり果實は蒴果にして二裂し、胚珠は多数にして藥用として供せられ又
 本種は觀賞用として栽培するもの多けれど其時は強壯劑として藥用に供せられ又
 食用となす事を得ると云ふ。
 備考一、本種の紫色のものを持つて *Epinetium violaceum* Moer. et Dome. と
 稱するものあり。

本圖 大正八年五月九日陸中志戸温泉に於て寫生(自然大)
 附圖 (一) 花の正面、(二) 花冠の一、(三) 花冠脱落せる花の側面、(五)
 (六) 葉、(七) (八) 九) 花の側面、(十) 印葉全部(自然大)

寫真 大正九年五月東京に於て著者撮影





のげし (野薔菜)

學名 *Zanclus oleraceus* L.
異名 はるののげし、けしあざみ

漢名 苦菜

英名 Sow Thistle

科名 菊科 (Compositae)

到る處の原野路傍に自生せる越年草にして、秋期散布せられたる種子より生ず。年内二三寸に生育して翌春暖氣と共に異常なる發育を遂げ、三四尺に達し、枝を分ちて開花す。夏より秋に到りて實を結ぶ冠毛により各地に分布せらる。葉は中空にして稜條を有し、緑色のものと帯紫色のもの、二種ありて短刺毛を生ず。葉は形狀頗る似たれども之より柔軟にして刺を有せず。莖葉共に刺状をなせる有圓節の乳管を具へ、傷けば白汁を出すことシババ、ニガナ、タンポポ等に似たり。

春期より初夏の候に渡りて枝を分ち、黄色の花を開く。花は合着せる舌状花冠にしてタンポポに似て小さく、勢は鱗片葉にして重複せり。果實は上端鋭尖、且つ無數の單一なる冠毛を有する瘦果なり。一種帯白色にして中心微黄なるものあり。牧野富太郎氏は之に「うすどろのげし」(forma albescens Makino)なる新稱を附せり。本種よりの搾汁は内臓及腺の癰毒を治するの效あり。且葉は食用に供し得と云ふ。

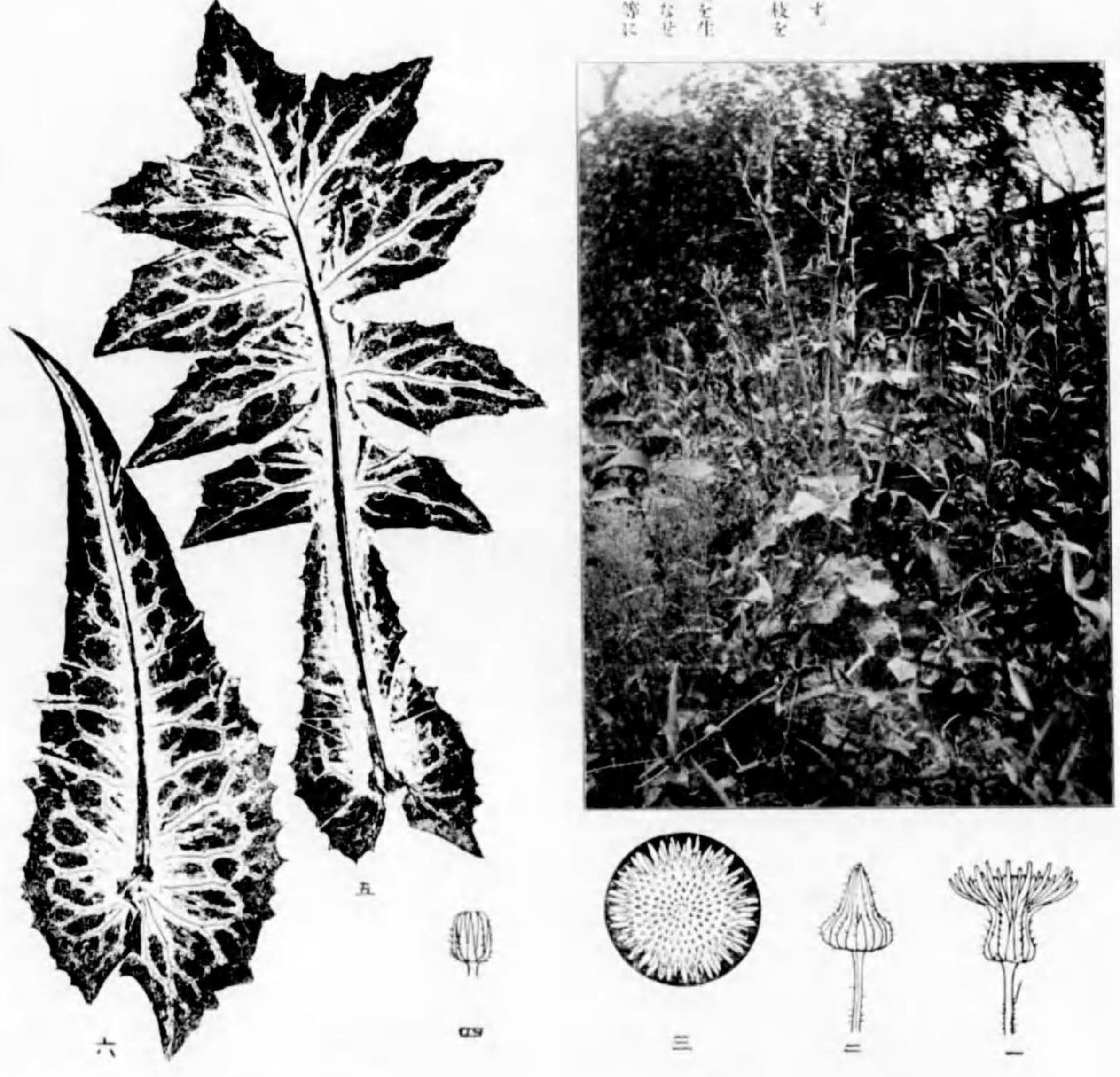
備考

一、學名なる *Zanclus* は *Zinnia* なるギリシヤ語より來りしものにして、是れ古來ギリシアに於て *Zinnia* *Zinnich* に對し呼ば習はされし名を其の處名となせしなるべし。

本圖 大正七年五月二十日東京に於て寫生自然大

附圖 (一)頭狀花の側面、(二)頭狀花蕾、(三)上面より見たる頭狀花、(五六)印葉、(全部自然大)

寫真 大正八年六月東京郊外に於て著者撮影





けまんざり (華鬘草)

學名 *Meibomia spectabilis* (L.) DC.

異名 ふちばたん、けまんぼたん

漢名 荷包牡丹

科名 罂粟科 (Papaveraceae)

もと支那、シベリアに原産せる宿根性草本にして、早春萌芽、羽状に細裂し先端稍々楔形の二三粗齒又は一裂片をなせる恰も牡丹に似たる葉を生ず。然れども幾分牡丹に比し厚く且色淡きの成あり。四五月頃葉腋より花莖を抽出し、淡紅色の美麗なる奇形花を十數個下垂して穂状に開く。其狀、頗る美觀にして、さながら璽塔を懸け華鬘を鈎くるが如し。蓋し此の名の出でし所謂なるべし。

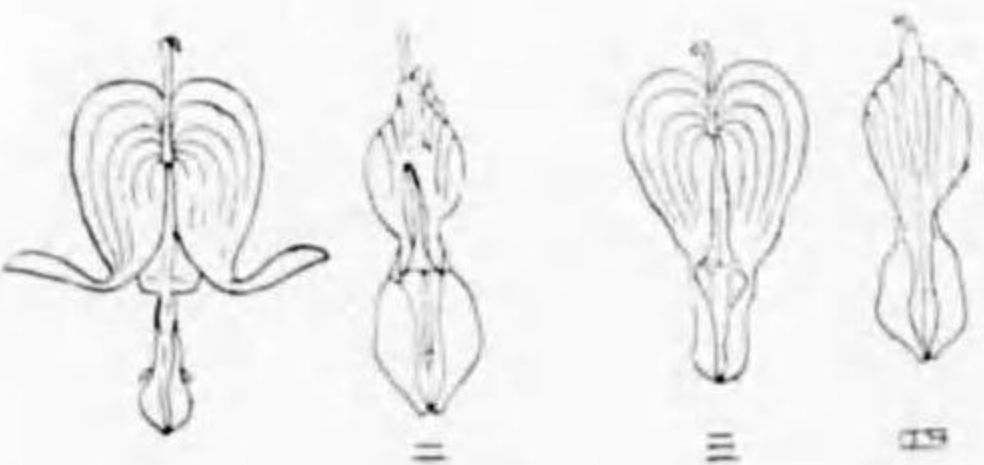
花は美しき小包を以て覆はれ、苞は二分して先端反卷す。花瓣は白色にして少しく苞より外部に露はれ、其の數三個、各々距を有す。雄蕊は六個にして、三個づつ二分せられ花瓣に對生す。此の三個の中、側方の二個は一室の距を有し、盛花の時には僅に外部より見得れど、中央のものは線状をなすのみなり。

子房は扁長にして莢様をなし、一花柱は雄蕊によりてよく挟まる。本種は性軟弱にして温潤なる陰地を好み、主として觀賞用として栽培せらるれど、有毒なるが故に誤りて食せば嘔吐を催すと稱せらる。

備考

一、學名なる *Meibomia* は、 μ 二個、*Kanum* 二個、なる二個の成語にして、花瓣の二個に各距を有するが故に名づけられたるものなり。*Meibomia* は「驚くべき」の意を有し、花の美しく奇しきに依り名附けられたるなり。

二、學名に *D. spectabilis* Miqu. を用ふるものあり。



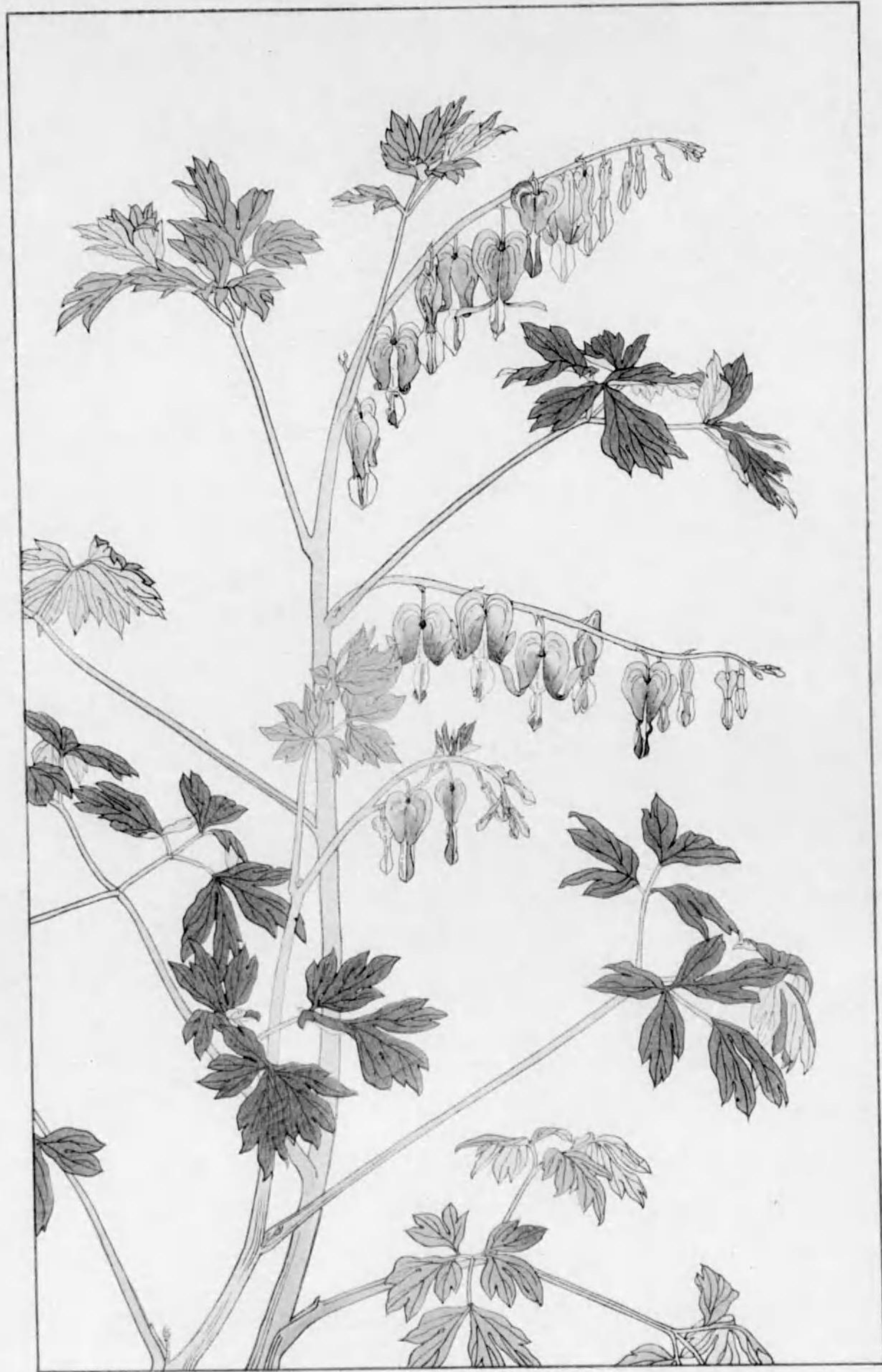
本圖 大正九年四月二十三日東京に於て寫生(自然大)

附圖 (一) 二花の側面、(二) 四下開

花の側面、(五) 六番、七印葉、

(全部自然大)

寫真 大正九年四月東京に於て著者撮影



つりがねにんちん (釣鐘人參)

學名 *Aemophora verticillata* Fisch.

漢名 沙參

科名 桔梗科 (Campanulaceae)

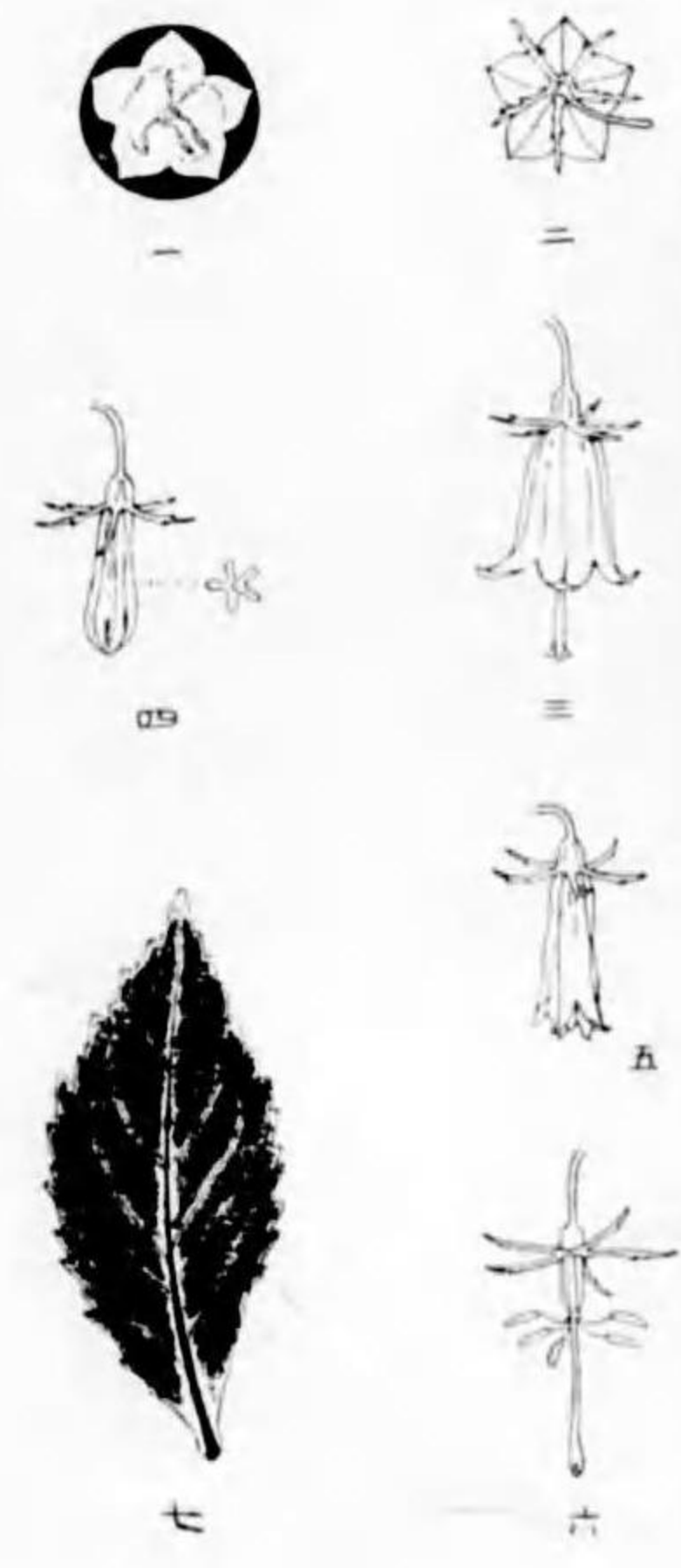
山野に自生する多年生草本にして草丈凡二尺、根は肥厚し、之より一莖或は數條の莖を直立す。葉は單一にて上部の花の近き所に於て分枝し數花を着生せり。
根葉は幼時に於てのみ生存し、花時には既に枯凋するを常とす。其形、腎臓形或は圓狀腎臓形をなして長柄を有せり。葉葉は其形一ならず或は無柄、或は有柄、又廣狹、形狀皆變を異にす。然れども概して下部根葉に近きものは葉柄を有すれど、他のものは多く無柄にして通常輪生し、三乃至六葉を一節に着生すれど又互生せるものあり。其の形狀も長橢圓形或は廣披針形をなすあり。葉頭概ね鋭尖をなせど又鈍頭を有するあり。葉縁には腎臓齒を有すれど、或は深きあり、淺きあり、或は單鋸齒なるあり、重鋸齒なるありて全く一定せず。人により之を細かく分類するものあれば此の變化は頗る微妙にして複雑なるものなれば明確なる分類をなす能はず、寧ろ一種として取扱ふ方が可なりと思ふ。

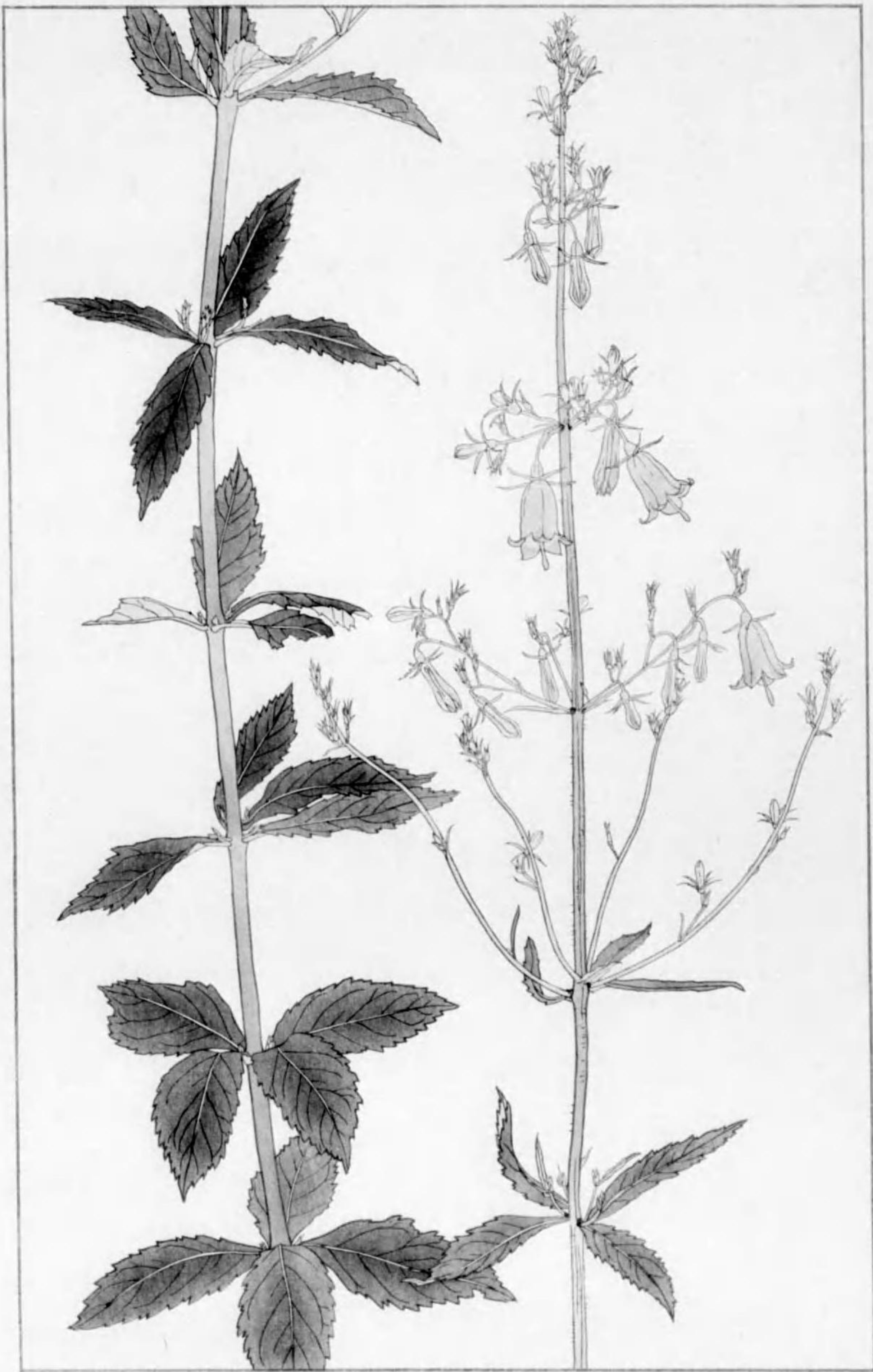
九月頃數枝を分ちて淡紫藍色の花を垂下して開く。花は放射相稱にして合着して鐘狀を呈し、大さ凡五五分、幼時は鐘合狀をなす。萼片は五個あり鐘形にして全邊或は少數の細齒あり。雄蕊五個、基部圓大すれど合一せず。先細くして絲狀をなし四方に開く。葯は長く、雄蕊の末端にありて淡黃褐色を呈す。雌蕊は一個、花柱は長く離外に出で、處に三裂せるあり。基部稍々粗にして、衣袋狀又は筒狀の大なる花盤に着生し、子房は之の下位にあり。球形をなして大ならず三室に分れ花後胎果を結ぶ。

本種の嫩苗は食用に供せられ、又花の美しきにより觀賞用として栽培せらる。事あり。
本邦諸州に産する外、遠く朝鮮、支那、滿洲に産するものと云ふ。

備考 一、本種に白花の種あり。
一、葉の互生せるは常態にあらずして多くは一時的偶發的變態なり。一旦變せられたる枝の更に新葉を萌出せるが如きものに多く現はる。所の状態なりと云ふ。
一、ナガバシヤン (*A. verticillata* Fisch. var. *angustifolia* Regel) と稱するは本種中特に披針形或は線狀披針形の葉を有するものに名づけられたるものなり。
一、サイヤフシヤン (*A. verticillata* Fisch. var. *trilobata* Miq. = var. *subrotundifolia* Regel) と稱するは本種中特に線狀の葉を有するものに名づけられたるものにして、葉節上必ずしも三室なるは要せず或は四葉のものも此の中に含めらる。事あり。

本圖 大正八年八月二十日東京に於て寫生(自然大)
附圖 (一)花の正面、(二)花の背面、(三)花の側面、(四)蕾及其側面圖、(五)子開花の側面、(六)花被を取去りて見たる圖、(七)印葉(全部自然大)





約 水 橋
核 非 水 橋
部 大 倉 年 英 樹 綱
基 元 化 謙 應 彦 錦 章
八 田 百 有 松 樹
參 春 陽 堂 繁 行
四 國 國 本 村 市 京 東

終